



介護事業者向け

介護テクノロジー 導入プロセス事例集

介護テクノロジー導入モデル事業
取組結果報告

2025年9月
群馬県 健康福祉部 福祉局
地域福祉課 福祉人材確保対策室



1. はじめに

2. 介護テクノロジー導入のプロセス

3. 介護テクノロジー導入のポイント

4. 導入事例

事例1 社会福祉法人マグノリアニセン

- ・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- ・導入プロセス詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

事例2 社会福祉法人邦知会

- ・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- ・導入プロセス詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

事例3 社会福祉法人ほたか会

- ・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
- ・導入プロセス詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

1. はじめに



本冊子の構成

本冊子は、令和6年度介護テクノロジー導入モデル事業において、機器等を導入した事業者の、導入プロセスや成果を紹介しています。

これから初めて介護テクノロジーを導入する事業者はもちろん、既に導入している施設・事業所における機器の追加検討等の参考に活用いただくことを想定しています。

本冊子の使い方

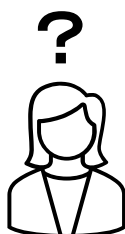
本冊子は、どのページから読んでいただいてもかまいません。以下のような時に目を通してみてください。

介護ロボットの導入はどんな手順で進めたらいいのかな？

→P4 へ

介護ロボットの導入の際にどんなことを意識したらよいか？

→P5 へ



導入の進め方が分からないけれど、モデル事業所はどう対応していたかな？

→P8 へ

導入計画や導入スケジュールのフォーマットはある？

→別添_業務改善計画書
(参考例) へ

モデル事業者への質問・見学の連絡先

モデル事業者に質問・見学を希望する場合や、モデル事業者の作成した業務改善計画書、進捗管理シートの提供を希望する場合は以下の連絡先にご連絡ください。

介護職場サポートセンターぐんま

TEL: 027-226-1153

HP : <https://kaisapo-gunma.com/>

2.介護テクノロジー導入のプロセス



本事業でモデル事業者は以下のプロセスで機器を導入しています。本事例集ではそれぞれの事業者が、各プロセスで具体的な取組内容を掲載します。



3. 介護テクノロジー導入のポイント



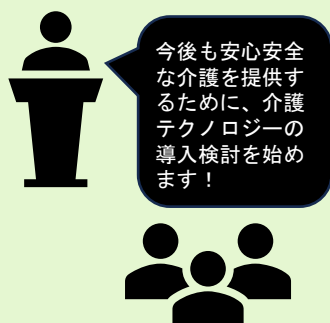
改善活動の準備をしよう

介護テクノロジー導入・評価に必要な委員会の設置

施設・事業所において、介護ロボット・ICT 機器の導入検討に関する委員会（以下、委員会と呼ぶ）を作りましょう。

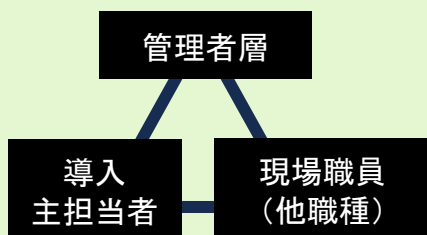
ポイント 1

トップ層による介護テクノロジー導入宣言



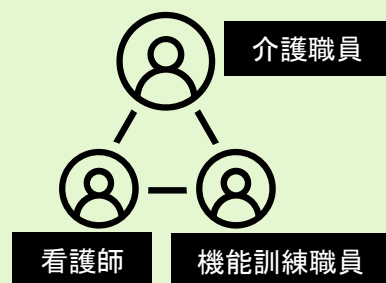
ポイント 2

管理者層と現場職員を含めて組織



ポイント 3

他職種を含む



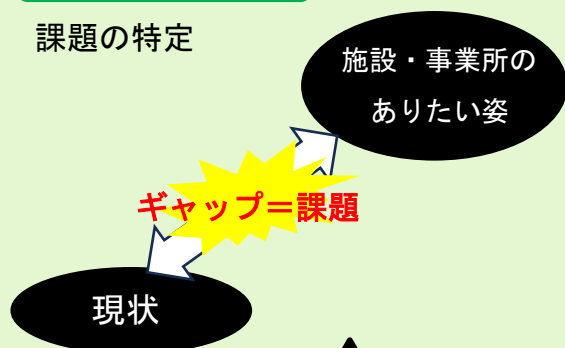
現場の課題を見える化しよう

ケアの改善に向けた課題の特定

委員会において、施設・事業所の現状の課題を抽出しましょう。

ポイント 1

課題の特定



ポイント 2

現場職員の声を聞いて、課題を見える化

- ・ ワークショップ、職員アンケート
- ・ ヒアリングの実施等
- ・ コンサルタント等、専門家への相談も有効です

⚠ 介護ロボット・ICT 機器の導入を前提にしないこと！

3.介護テクノロジー導入のポイント



実行計画を立てよう①

介護テクノロジーの選定(類似機器調査)、機器導入環境の検討

課題と目標が定まったら、テクノロジーの導入が有効な課題については、導入する介護テクノロジーを選定しましょう。このとき、Wi-Fiや電源などの機器を導入するために必要な設備環境も検討を忘れずに。

ポイント1

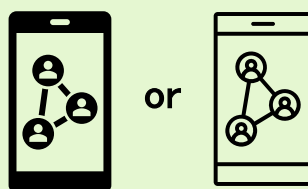
展示会・セミナーへの参加



県のセミナーの様子

ポイント2

複数機器の試用



A

B

ポイント3

設備環境の確認

- ☒ Wi-Fi環境は？
- ☒ 電源は？
- ☒ 置き場所は？
- ☒ 機器同士の連携は？

評価方法、評価指標の設定

どのような効果が出れば、介護テクノロジーの導入が有効と言えるか、客観的な判断ができるよう、評価指標を設定しましょう。

評価指標(例)

利用者向け	利用者の満足度等調査
職員向け	介護職員の1月当たりの総業務時間及び超過勤務時間調査
	年次有給休暇の取得状況調査
	介護職員の心理的負担等調査
	機器の導入等による業務時間調査(直接介護、間接業務、休憩等)

ポイント

介護テクノロジーの導入効果を測定するため、導入前後で評価し、比較しましょう。

3.介護テクノロジー導入のポイント



実行計画を立てよう②

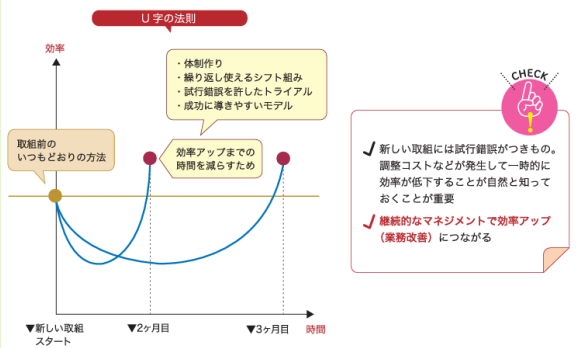
機器導入に伴うオペレーションの見直し

介護テクノロジーの導入に伴いオペレーションが見直され、必要な作業や手順が変わる作業が出てきます。導入目的に合わせて、業務体制や人員配置、業務ルールや基準の見直しを行います。

ポイント1

U字の法則

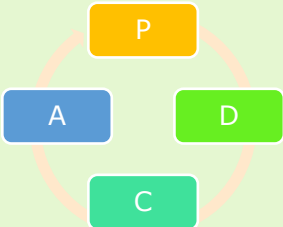
導入初期では、試行錯誤や慣れない業務方法への変更で一時的に効率が低下します。



(出典)厚生労働省「介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上のガイドライン」

ポイント2

PDCAサイクルによるモニタリングで継続的な運用見直し



機器の利用計画

利用対象者、利用対象者の割合、機器使用者、テクノロジーの利用頻度の想定を行いましょう。

ポイント

いっぺんに介護テクノロジーを導入するのではなく、少しずつ導入をしていきましょう。

機器導入に伴うスケジュール

介護テクノロジー導入スケジュールを作成しましょう。

ポイント

機器の導入に伴う職員への研修は必ず実施し、導入後も継続的に実施しましょう。

介護テクノロジー導入方針									
目標									
導入プロセス	導入計画	実施計画	実施状況	実施結果	実施評価	実施改善	実施継続	実施終了	実施完了
導入計画	実施計画	実施状況	実施結果	実施評価	実施改善	実施継続	実施終了	実施完了	実施完了
実施計画	実施状況	実施結果	実施評価	実施改善	実施継続	実施終了	実施完了	実施完了	実施完了
実施状況	実施結果	実施評価	実施改善	実施継続	実施終了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了
実施結果	実施評価	実施改善	実施継続	実施終了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了
実施評価	実施改善	実施継続	実施終了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了
実施改善	実施継続	実施終了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了
実施継続	実施終了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了
実施終了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了
実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了	実施完了

3.介護テクノロジー導入のポイント



改善活動に取り組もう

機器の導入(職員研修)、運用ルールの検討

ポイント1



介護テクノロジーの導入目的を職員間で共有し、メーカーによる操作説明を複数回行います。

ポイント2



現場の意見を反映しつつ、施設・事業所ごとに機器の運用マニュアルを作成しましょう。

改善活動を振り返ろう

取組の前後評価の実施

実行計画の中で設定した評価項目が達成されているかの評価を行いましょう。

ポイント1



評価は、利用者への効果・職員への効果・組織への効果の観点で行います。可能な限り定量評価ができるようにしましょう。

ポイント2



調査は現場の負担にもなりますので、導入目的に合わせて、調査負担がなるべく減るような調査方法を選択しましょう。

実行計画を練り直そう

- ・ うまくいった場合は、好事例として施設・事業所内に情報共有しましょう。
- ・ うまくいかなかった場合は、原因を検証し、実行計画に変更を加えましょう。
- ・ 最初の計画にこだわりすぎず、短期間で小さな改善を積み重ねましょう。



(出典)厚生労働省「介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上のガイドライン」



現場から始まる、介護の改革。

事業者概要

法人名: 社会福祉法人マグノリアニセン
主たる施設所在地: 高崎市



施設・事業所名	サービス種別	利用者数	従業員数
特別養護老人ホームシェステ さとの花	介護老人福祉施設 (短期入所生活介護)	50 (10)	40
特別養護老人ホームシェステ さとの花別邸陽・別邸紫	地域密着型介護老人福祉施 設入所者生活介護	それぞれ 20	それぞれ 14
ケアサポートセンター さとの花	小規模多機能型居宅介護	25	12
グループホームさとの花	認知症対応型共同生活介護	9	8

介護テクノロジー導入のきっかけ

地域の要望に応じて尽力してきた法人の事業展開が一段落し、介護テクノロジー導入を検討する時間ができたことが取組みのきっかけです。必要性はずっと感じていました。

介護テクノロジー導入により介護現場の生産性を向上することはもちろん、スタッフが自信と誇りを持って働くことができる魅力ある職場づくりをしたいと考え、省力化すべきことは省力化し、充実すべきことは充実し、最終的にはサービスの質の向上につながると確信しています。



今井施設長

目標と課題

【目標】職員の負担軽減と個別ケアの質の向上

【課題】

- ・ 職員の身体的・心理的負担が大きい
- ・ 個別ケア充実・居室での事故原因分析
- ・ 記録業務に要する時間が長い
- ・ 文書の量が多い
- ・ 記録が不正確・不十分
- ・ 事業所内の情報共有が非効率



導入機器等

※下線部が今回のモデル事業対象機器

事業所	介護ソフト	入力機器	情報伝達機器	見守り機器	その他
従来型特養	ケアカルテ	タブレット 4台 iPhone 6 台 PC 5台	PHS 6台 (iPhone6 台) <u>インカム8台</u>	<u>カメラ型</u> 60台 <u>センサー型</u> 5台	<u>自動体交支援</u> <u>マットレス</u> 5台
ユニット型特養	ケアカルテ	タブレット 4台 iPhone 6 台 PC 4台	PHS 6台 (iPhone6 台) <u>インカム2台</u>	<u>センサー型</u> 40台 <u>カメラ型6</u> 台	<u>排泄予測機器</u> 1台
デイサービス	ケアカルテ	タブレット 1台 PC 2台	 インカム+iPhone	 見守りセンサー	
居宅介護支援	ケアカルテ	PC 3台			
小規模多機能	<u>クイックケア</u>	<u>タブレット</u> 1台 PC 2台	 介護記録ソフト	 自動体交支援マットレス	
グループホーム	<u>クイックケア</u>	<u>タブレット</u> 1台 PC 1台			
あんしんセンター	クイックケア	PC 2台			

取組のポイント

身体的心的負担を軽減し生産性を高めケアの質を向上！

- ・ 見守りシステムを中心に課題解決に必要なテクノロジーを連動させ、より効果的効率的なシステムを構築。
- ・ 事業所により課題も異なり、活用したいテクノロジーも異なるため機器選定は現場スタッフに任せた。
- ・ 介護テクノロジーをフル活用しスタッフの負担を軽減し、働きやすい魅力ある職場を実現することでケアの質が向上。



委員会打合せの様子



導入成果(概要)

【介護ソフト】

- ・紙媒体70%削減、記録時間20%削減
- ・外国人スタッフも記録可能に
- ・データ一括管理のため、どこでも記録検索可能に

【iPhoneナースコール連動】

- ・一部スタッフへ偏った負担を分散可能に
- ・事故発生時その場で入力かつ、写真に残せるように
- ・1台で情報把握・記録・コール対応可能に

【見守りシステム（センサー）】

- ・夜間訪室時間 60分削減
- ・夜間訪室回数 半減
- ・転倒注意者リビング見守り後22時就寝→19時就寝
- ・ターミナルケアについて、通知機能によりスタッフの精神的負担減

【見守りシステム（カメラ）】

- ・夜間巡視時間15分削減（特に上下フロアの巡視）
- ・映像を見ながら優先順位の決定
- ・録画機能による事故原因の明確化（対策や家族への説明に効果あり）

【インカム】

- ・スタッフを探す時間削減 30秒～2分
- ・その場を離れなくてもいい待たせないケア
- ・同時に複数人で情報共有
- ・業務しながら申し送り

【全自動体位交換マットレス】

- ・体位交換4時間毎で可。安眠確保
- ・オムツ交換時間（約25人）平均66分→平均53分
- ・重度褥瘡（3ヶ所）の方（入居時持込み）→2ヶ所治癒 1ヶ所2cm縮小（使用者の皮膚状態は良好）
- ・スタッフの腰痛/肘痛等の身体的負担減少の実感

【排泄予測機器】

- ・1週間で7回の尿漏れ、更衣→尿漏れは1週間で1回のみ

**機器導入により生まれた時間は、より介助が必要な方の対応に充て、
職員の負担軽減と個別ケアの質の向上の目標を達成！**



改善活動の準備をしよう

介護テクノロジー導入・評価に必要な会議体の設置

法人全体で生産性向上推進委員会・事業所毎に分科会を設置

【実施したこと】

- ・ 経営戦略会議で介護テクノロジー導入の意向を各事業所責任者に確認。
- ・ 役職者勉強会、職員研修会で全スタッフに施設長から導入宣言及び改善計画を説明。
- ・ 生産性向上推進委員会を設置。各事業所の責任者及び事務管理者が参画。
- ・ 各事業所毎に分科会を設置。**現場スタッフの声から課題解決のために必要な機器を選定。**

【メンバー】 推進委員会：施設長・各事業所責任者（課長・主任）・事務（課長・主任）

分科会：課長・主任・リーダー（相談員・介護・看護）

【開催頻度】 推進委員会・分科会 各月1回

現場の課題を見える化しよう

ケアの改善に向けた課題の特定

【課題の特定のために実施したこと】

- ・ 現在困っていることやこうなったら良いと思うことを現場職員からヒアリングやアンケートで聴き取る。
- ・ それをもとに課長、主任、リーダーで話し合い、課題を特定した。

【介護老人福祉施設の課題】

- ・ 認知症の方や転倒リスクの高い方、医療的配慮の高い方、ターミナル期の方への見守り等心的身体的負担が高い。
- ・ 居室内での怪我の原因が特定できず適切な対策が立てられない。
- ・ 排泄のタイミングが合わず睡眠の妨げや全更衣等の不快や負担が大きい。
- ・ 大きな体格の方や拘縮の強い方が多く、体位交換の負担が大きい。
- ・ PHSのみでは情報伝達が効率的でない。

【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護の課題】

- ・ 記録に要する一連の作業に時間がかかる。重複した記録が多く、手間もかかり転記ミスも起こる。情報共有しづらい。
- ・ 外国人スタッフにとっては手書き文字は読みにくい。また、日本語で正確に記録することは難しい。



実行計画を立てよう①

課題に対する目標設定

【介護老人福祉施設】

1. 夜間見守りのための定期巡視をなくし、職員の身体的・心理的負担の軽減する。更に得られた時間を活用し、より必要なご利用者様に手厚いケアを提供。
2. 事故を未然に防ぐ、もしくは起きてしまった事故を原因分析し、適切かつ効果的なケアを提供することで居室での事故を減らす。
3. 睡眠サイクルと排泄サイクルを把握し、自立支援・個別ケアを充実させる。
4. 重度化及び体格のよい利用者の褥瘡を予防し、職員の身体的負担の軽減を図る。

【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護】

1. 記録時間を削減し転記ミスをなくし、作業効率化を図り、直接ケア時間を増やす。

介護テクノロジーの選定(類似機器調査)

【最初の記録ソフト導入の際に実施したこと】

- ・ カタログやインターネット、研究大会等の資料を調べ、課題解決につながり、将来的に構築したいシステムを実現できる機器(メーカー)を数社選定
- ・ メーカー担当者による説明会開催
- ・ 導入している事業所の施設見学(メーカー担当者を通して依頼)
- ・ プロジェクト発足
- ・ 現場スタッフへのデモンストレーション実施
- ・ 3社比較(機能・コスト・操作性・拡張性・メンテナンス等)
- ・ 現場スタッフの意見聴取

※ 実際に使用する現場スタッフの意見を尊重し機器を選定しました。特に見守り機器は台数や種類等の構成を含め、**機器選定を現場スタッフに任せました。**

機器導入環境の検討

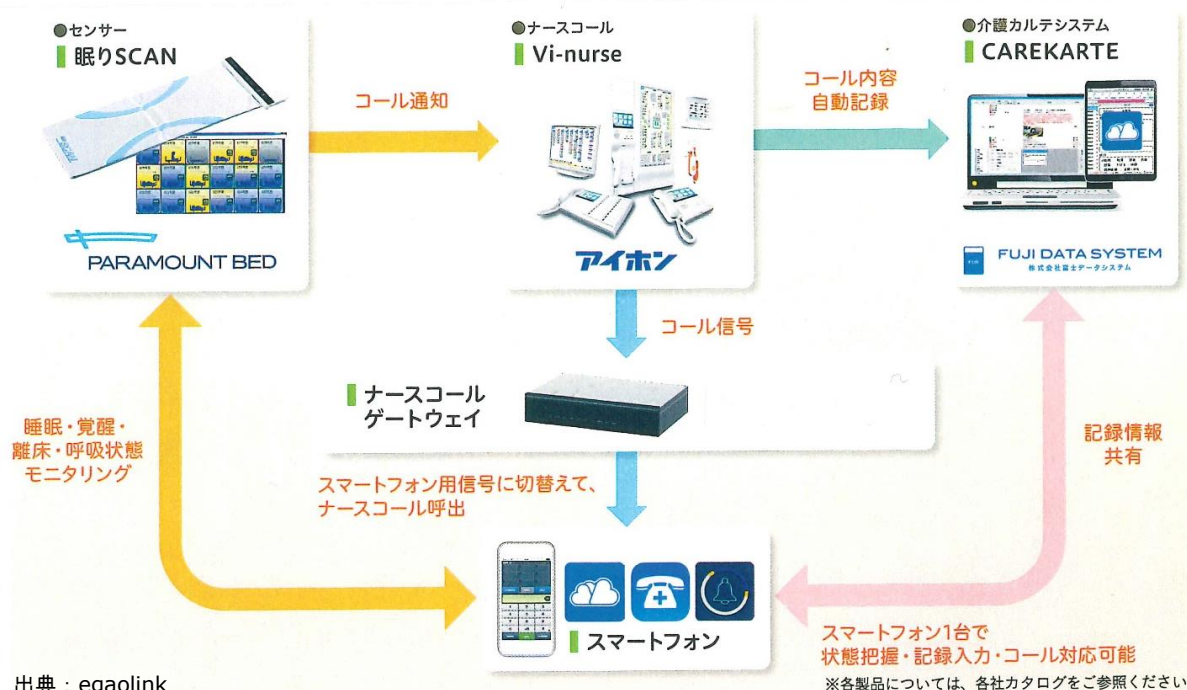
機器の導入にあたり、建屋躯体の構造上の問題から費用面で無線LANによる全機器接続を余儀なくされました。各メーカー担当者からは無線LANによる全機器接続は実績がないとのお話でしたが、センサー・カメラ111台、インカム10台、介護記録入力端末(ナースコール受信兼用)21台が実可動しており、柔軟な機器選定の前例として大きな成果となりました。ただし、音声通話や2.4GHz帯のみ対応の機器がある場合はSSID構築時に考慮が必要となります。



実行計画を立てよう②

導入システム(機器)全体図

<システムイメージ>



出典: egaolink

URL: <https://as-heim.com/lp/egaolink/>

システム構築に関わる工事

機器の導入に併せて、以下のシステム構築に関わる工事を実施しました。

- ① 電話主装置工事
- ② 無線LAN工事
- ③ インターネット回線工事
- ④ ナースコール改修工事
- ⑤ ナースコール／介護ソフト連動工事
- ⑥ 見守りカメラ取付工事

※ 工事は費用も時間もかかるので計画的に！



実行計画を立てよう③

評価指標、評価方法、評価者、評価頻度等の設定

介護テクノロジーの導入による、利用者に対するケアの質の向上と、職員の身体的・心理的負担の軽減の効果を評価するため、以下のとおり設定。

【介護老人福祉施設】

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
夜勤帯訪室回数及び訪室時間	導入前と導入後の夜勤帯での訪室回数及び訪室時間の比較	見守り機器を用いたケアを行った夜勤者	機器導入前と導入後（概ね3カ月後程度）、その後は1年に1回
居室での転倒転落事故件数	導入前と導入後の居室での転倒転落事故件数の比較	見守り機器を用いたケアを行った職員	
情報共有・応援要請に要する時間	導入前と導入後の1日の情報共有及び応援要請にかかる時間の比較	インカムを使用した職員	
トイレでの排泄支援者の人数及び使用オムツ（パット）の削減	導入前と導入後のトイレ案内者の人数比較及びオムツ（パット）の使用量（数と大きさ）の比較	排泄支援機器を使用した利用者	
職員の身体的・心理的負担の軽減	導入後職員アンケートを実施し、導入前と比べ負担がどうなったか評価する	介護テクノロジー機器を使用した職員	

【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護】

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
記録時間と外国人スタッフの介護記録教育に要する時間	導入前と導入後の1日の記録時間及び外国人スタッフの介護記録教育に要する時間の比較	記録システムを用いた職員	機器導入前と導入後（概ね3カ月後程度）、その後は1年に1回
職員の身体的・心理的負担の軽減	導入後職員アンケートを実施し、導入前と比べ負担がどうなったか評価する	介護テクノロジー機器を使用した職員	

機器導入に伴うオペレーションの見直し

- ・各事業所で機器ごとに担当者を（主任・リーダー）を選定。
- ・導入スケジュールを作成し、進捗管理を実施。
- ・メーカー担当者から機器取り扱い方法の説明。
- ・機器担当者と事務課長で導入後のオペレーションを確認しながら設置場所及び設置方法を決定
- ・機器担当者が導入後のオペレーション（業務手順）見直し案作成。
- ・デモ機を用いて、オペレーション再確認。再度見直し。
- ・機器担当者が機器使用方法及びオペレーション変更内容を機器を使用するスタッフへ説明
- ・機器導入後、実際に使用しながらスタッフの声を聴いて、随時見直し。



業務見直しの検討会の様子



オペレーション確認の様子



改善活動に取り組もう

機器導入前評価の実施

- ・ フロアの移動を含めたケアを伴わない巡視の時間測定
- ・ 居室での転倒転落の危険性が高い方の体動時の離床介助回数
- ・ 不潔行為に伴う更衣介助回数測定
- ・ センサーマット作動回数及び訪室回数測定及び内容の分析
- ・ ナースコール対応でその場を離れられない場合に他のスタッフを探す、呼びに行く回数や時間測定やその状況把握
- ・ 夜間の排泄介助に要する時間測定
- ・ 介護記録に要する時間、転記時間、記録に伴う資料検索時間の分析
- ・ 失禁及び失禁に伴う更衣介助の回数

機器導入に伴う職員の研修

- ・ 介護テクノロジー導入決定後、研修会で職員に改善計画を説明
- ・ 機器導入時、メーカー担当者から各事業所責任者及び機器担当者及び事務担当者へ説明
- ・ 各事業所責任者及び機器担当者は導入目的・使用方法・注意事項を機器を使用するスタッフへ説明
- ・ 操作方法及びオペレーションを評価表を用いて全員できるようになるまで教育
- ・ 生産性向上推進委員会で進捗や評価結果、効果について情報を共有し、効果的な活用方法を検討する。
- ・ 必要に応じて生産性向上及び介護テクノロジー活用に関する外部研修を受講。推進委員会で情報共有及び伝達講習を実施。各事業所で実践に活かす。



職員研修の様子



活用方法検討の様子

運用ルールの検討

- ・ 各機器毎に担当者を選任。各機器の使用手順書を作成し、スタッフへ周知
- ・ 有効活用するために通知機能などを利用者毎に設定
- ・ 必ず身につける、使用後は充電する、消毒する、決められた場所に置くなどのルールを徹底
- ・ 高価な機器のため、不注意による破損に十分注意し、取り扱いについて定期的に勉強会を実施

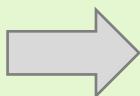


改善活動を振り返ろう(成果)①

導入成果(介護記録ソフト)

<導入前>

- 記録の転記作業が多い
- 日本人のみが記録担当
- 個性的な筆跡は読みにくい
- 記録と画像の別管理
- 記録の検索に時間がかかる



<導入後>

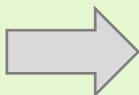
- 紙媒体 70%削減
- 記録時間 20%削減
- 外国人スタッフも可能
- 活字は誰でも読みやすい
- データ一括管理。検索が早い、どこでも検索可能

職員の
負担軽減

導入成果(iPhoneナースコール連動)

<導入前>

- 少数スタッフへ負担集中
- 事故発生と記録のタイムラグ
- PHSとiPhone2台所持



<導入後>

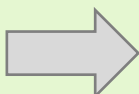
- 多数スタッフへ負担分散
- その場で入力かつ、写真に残せる
- 1台で全ての機能 (情報把握・記録・コール対応)

職員の
負担軽減

導入成果(見守りセンサー)

<導入前>

- 夜間訪室(巡視のみ) 1回/時間
- 離床センサー反応 190回/週
- 転倒注意者リビング見守り後 22時就寝
- ターミナルケアの方へのまめな巡視



<導入後>

- 訪室時間 60分削減
- 訪室回数 半減
- 19時就寝可能
- 通知機能によりスタッフの精神的負担減

職員の
負担軽減

ケアの質の
向上

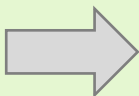


改善活動を振り返ろう(成果)②

導入成果(見守りシステム・カメラ)

<導入前>

- ・ 夜間、ケアを伴わない巡視のためだけの時間がある
- ・ 見えない不安
- ・ 事故への「〇〇だろう」対策



<導入後>

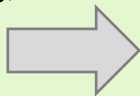
- ・ 夜間巡視時間15分削減
(特に上下フロアの巡視)
- ・ 映像を見ながら優先順位の決定
- ・ 録画機能により原因の明確化
(対策や家族への説明に効果あり)

職員の
負担軽減

導入成果(インカム)

<導入前>

- ・ ナースコールや電話呼び出し時スタッフを探しに行くもしくは大声を出す
- ・ PHSは1対1のやりとり
- ・ 申し送りのためケアを中断して集まる



<導入後>

- ・ 探す時間削減 30秒~2分
- ・ その場を離れなくてもいい、待たせないケア
- ・ 同時に複数人で情報共有できる
- ・ 業務しながら申し送り

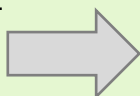
職員の
負担軽減

ケアの質の
向上

導入成果(全自動体位交換マットレス)

<導入前>

- ・ 2時間毎の体交で安眠できない
- ・ オムツ交換(約25人)平均66分
- ・ 重度褥瘡(3ヶ所)の方(入居時持込み)
- ・ スタッフの腰痛/肘痛などの不調



<導入後>

- ・ 4時間毎で可。安眠確保
- ・ 平均53分
- ・ 2ヶ所治癒 1ヶ所2cm縮小(使用者の皮膚状態は良好)
- ・ 身体的負担減少の実感

職員の
負担軽減

ケアの質の
向上



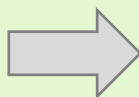
改善活動を振り返ろう(成果)③

導入成果(排泄予測機器)

<導入前>

- ・ 午前1時のパット交換
- ・ 1週間で7回の尿漏れ、更衣

※導入効果が高そうな利用者を選定して試用した結果です。



<導入後>

- ・ データから22時、2時のパット交換へ変更
- ・ 尿漏れは1週間で1回のみ
- ・ 1週間で60分削減
- ・ 利用者の更衣負担軽減

ケアの質の向上

生産性向上加算算定状況

【特別養護老人ホーム シェステさとの花(従来型)・別邸陽、別邸紫(ユニット型)】

2025年4月～生産性向上推進体制加算(Ⅰ) 算定開始

【グループホームさとの花】

2025年4月～生産性向上推進体制加算(Ⅱ) 算定開始

実行計画を練り直そう

今後の課題

【運用上の課題】

- ・ Wi-Fi環境による業務への影響は大きい。不意に使えないなどのリスクを避けるためにネット環境の整備は慎重に行っていく。

【客観的データに基づく個別ケア】

- ・ カメラ導入後、事故原因の明確化が進んでいる。今後は事故そのものを減少させていけるようデータを活用していく。
- ・ 排泄予測機器は一定の効果は得られたが、効果が得られない人もいる。アプローチ方法の見直しが必要。
- ・ 睡眠サイクルと排泄サイクルのデータ把握(分析)から自立支援、個別ケアへつなげることがまだできていないので今後重点的に取り組んでいく。
- ・ 得られたデータや現状の業務内容の分析から、利用者と直接かかわる時間を増やせるよう継続して改善を図っていく。



ご利用者の安心安全と職員の負担軽減を実現！ ～ 介護テクノロジー導入 ～

事業者概要

法人名：社会福祉法人邦知会
主たる施設所在地：桐生市



施設・事業所名	サービス種別	利用者数	従業員数
ユートピア広沢	介護老人福祉施設 (短期入所生活介護)	40 (20)	18.0 (7.5)
ユートピア広沢	地域密着型介護老人福祉施設入所 者生活介護	20	9
リバーサイド広沢	特定施設入居者生活介護	15	6

介護テクノロジー導入のきっかけ

今後、介護人材の確保が一層困難になることが予測される中、法人として職員の負担軽減と業務効率化を図る必要性を強く感じていました。

これまで人が行っていた業務をテクノロジーで置き換えることで、持続可能な介護サービスの提供体制を構築するとともに、業務プロセスの見直しを通じて、介護現場全体の生産性向上を目指す取り組みを進めなくてはならないと考えております。



服部
施設長



担当者
中村相談員

目標と課題

【目標】職員の負担軽減とケアの質の向上

【課題】

- ・職員の身体的・心理的負担が大きい
- ・定期巡視が利用者の安眠を妨げている
- ・記録業務に要する時間が長い
- ・事業所内の情報共有が非効率



導入機器等

導入機器の種別	導入機器（製品名/メーカー）
見守りセンサー	aams/バイオシルバー aams連携ネットワークカメラ/バイオシルバー
記録ソフト	ワイズマンシステムSP すぐろくtablet/株式会社ワイズマン



見守りセンサー



記録ソフト



ナースコール

取組のポイント

介護テクノロジー導入のプロセス

- 課題を明確にする**
 - 施設のどの業務が負担になっているのか、職員の意見を聞いて整理する。
 - どの業務をテクノロジーで置き換えられるかを考える。
- 既存のシステムと連携できる機器を選ぶ**
 - すでに使っている記録システムと、見守りセンサーやナースコールをつなげる。
 - できるだけ一つのシステムで管理できるようにする。
- ネットワーク環境を整える**
 - 通信が途切れないように、安定したネットワークを構築する。
- 操作しやすい機器を選ぶ**
 - タブレットやスマートフォンを使い、現場で簡単に入力できるようにする。
 - 職員がすぐに慣れ、負担が増えない機器を選ぶ。
- 事前に試験導入を行う**
 - 実際に使ってみて、不便な点や改善点を確認する。
 - 現場の声を反映しながら、本格導入の前に調整する。
- 導入後の効果を確認し、運用を改善する**
 - 記録時間の短縮や業務負担の軽減など、効果を測定する。
 - 必要に応じて設定や運用方法を見直し、さらに使いやすくする。



導入成果(概要)

利用者への効果

- ◆ **夜間巡視の削減により睡眠の質が向上**
見守りセンサーの導入により、夜間の定期巡視を削減できたことで、利用者を不要に起こすことが減り、落ち着いて眠れる環境づくりにつながった。
- ◆ **転倒・急変リスクへの早期対応**
離床センサーやカメラのアラート機能により、転倒や急変の兆候をいち早く察知し、迅速なケアが可能となった。
- ◆ **生活リズムに合わせた個別ケアの実現**
見守り機器のデータを活用し、起床・就寝・離床などのパターンを把握することで、利用者ごとに最適なタイミングでの声かけや支援が行えるようになった。

職員への効果

- ◆ **身体的・精神的負担の軽減**
夜間巡視回数が減ったことで、特に夜勤時の負担が軽減され、職員の疲労感・緊張感の軽減につながった。
- ◆ **記録業務の効率化と即時性の向上**
スマートフォンによるその場での記録入力を基本ルールとし、記録時間の短縮とタイムリーな情報共有が実現。外国人職員にとっても操作しやすく、業務の標準化と習熟支援に効果があった。
- ◆ **記録内容の整理と運用改善**
記録内容の見直しを行い、簡潔かつ実用的な記録内容に整理。職員同士の情報共有のスピードが向上した。

組織への効果

- ◆ **業務の見える化と改善の促進**
機器を通じて得られるデータにより、業務負担や対応状況を可視化できるようになり、業務改善やシフト編成の見直し等につなげられる。
- ◆ **システム全体の連携と最適化の推進**
すでに使用している記録システムと連携可能な機器を選定し、ナースコールや見守りセンサーとの連動を実現。あわせてネットワーク環境も見直したことで、業務全体がスムーズに流れる仕組みが整いつつある。
- ◆ **次の段階への可能性の明確化**
現在は「生産性向上推進体制加算Ⅱ」を算定しているが、上位区分である「加算Ⅰ」の取得に向けて準備中。今後も継続的な見直しと改善を通じ、持続可能な介護体制の構築を目指す。

機器導入により職員の負担軽減と個別ケアの質の向上の目標を達成！



改善活動の準備をしよう

介護テクノロジー導入・評価に必要な会議体の設置

法人全体で介護テクノロジーを進めていく体制をつくる

◆介護テクノロジー導入検討時

法人内各施設から選抜されたメンバーによるICT化推進チームを設置。
月1回程度の会議にて運営。

◆介護テクノロジー導入時

生産性向上委員会を設置。法人委員会（旧ICT化推進チーム）と施設委員会を連動させる形で運営。

施設委員会…管理者、部署責任者、介護職員、看護職員、介護支援専門員

現場の課題を見える化しよう

ケアの改善に向けた課題の特定

【課題の特定のために実施したこと】

- ◆ 職員の業務負担や非効率な業務を洗い出すため、3M(ムリ・ムダ・ムラ)シートを活用。
- ◆ 実際の業務フローを分析し、課題を具体化。

【コンサルタントの活用について】

介護テクノロジー導入検討時にコンサルタントを活用

- ◆ 月1回の定例会議
- ◆ 介護テクノロジー導入方法の相談
- ◆ 課題抽出シートの作成やその結果の分析、課題の見える化

【施設の課題】

- ◆ 定期巡視時に利用者を起こしてしまい、睡眠の質低下に繋がっている。
- ◆ 介護職員が不足しているため、一人ひとりの利用者に対し十分な目が行き届かず、利用者への急な体調変化等に気づくのが遅れてしまう。
- ◆ 施設内のWi-Fi電波強度が弱く、電波が途切れてしまう。
- ◆ 記録をするためにパソコンがあるところまで戻らなくてはならない。



実行計画を立てよう①

課題に対する目標設定

1. 見守り機器を導入することにより、定期巡視の回数を減らし、利用者の睡眠の質向上と職員の身体的・精神的負担の軽減を図る。
2. 利用者の急な体調変化を早期発見し、適切なケアを提供することで、安全で安心な生活支援につなげる。
3. 転倒や転落の兆候にいち早く気づき、安全な生活環境を実現する。
4. タイムリーな記録入力・情報共有ができる環境を整備することで、事務作業の効率化につなげる。
5. 利用者の生活リズムを把握し、適切なタイミングで声かけや援助を行う。

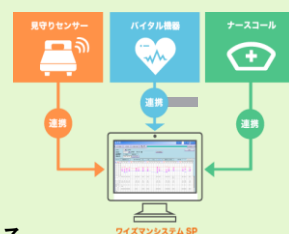
介護テクノロジーの選定(類似機器調査)

機器選定にあたり、以下の基準を設定。

- ◆ 既存の記録システムと連携できること
- ◆ 見守りセンサー・ナースコールと統合可能であること
- ◆ できるだけ一つのシステムで管理できること

以下の手順で選定をすすめる。

1. 記録システム担当者に、連携可能な機器の種類や連携内容を確認する。
2. 福祉機器展での見学や、メーカー担当者からの説明を受け、機器の特徴を把握する。
3. デモ利用が可能な機器は実際に試し、操作性や導入効果を検証する。
4. 試験的に数台購入し運用しながら、導入の適否を判断する。



機器導入環境の検討

実施した工事 : Wi-Fi設備工事、見守り機器全床設置、ナースコール・スマホ連動

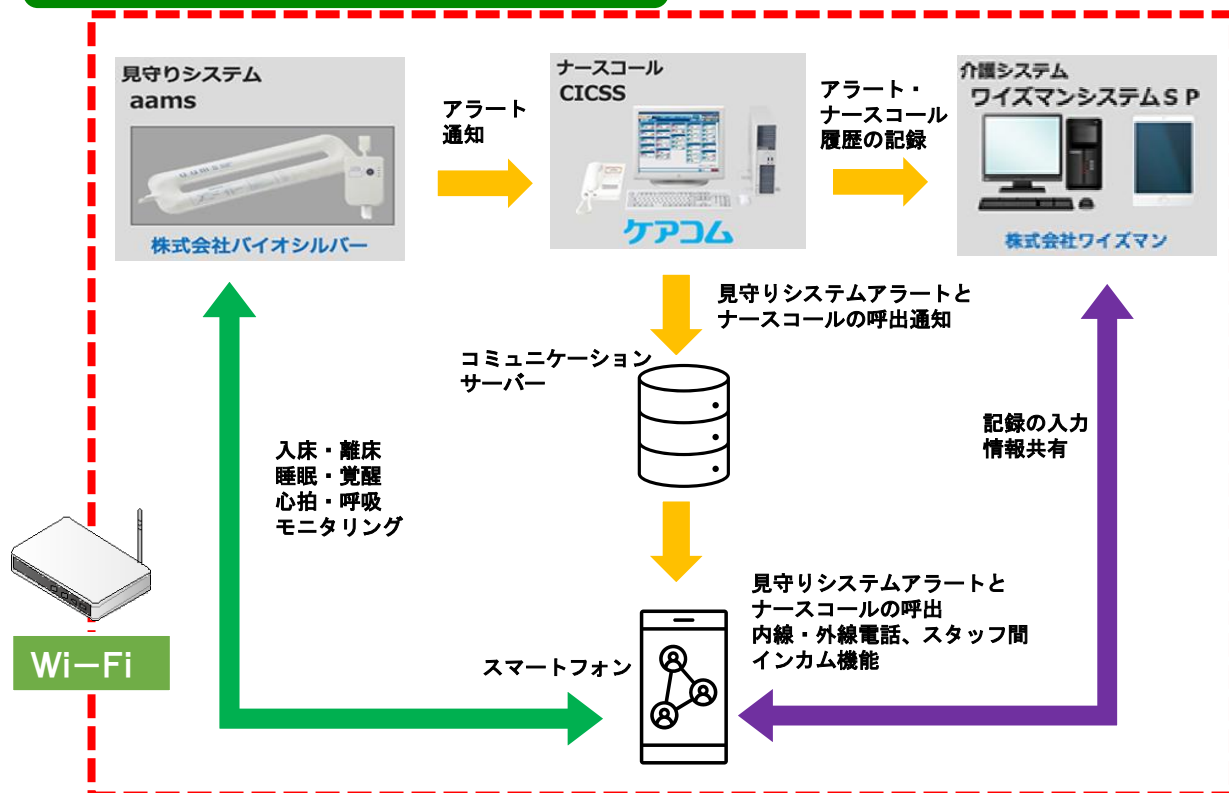
<機器導入環境のポイント>

1. **Wi-Fi環境の事前調査**
建物の構造や間取りにより電波が届きにくいエリアが発生するため、事前に電波強度を測定し、アクセスポイントの最適な場所と数を確認すること。
2. **既存システムとの連携可能性の確認**
ナースコールや記録ソフト等との連携の可否及び追加コストについて確認すること。
3. **全体像を見据えた計画**
部分的な導入では効果が限定的になる可能性があるため、全体像を明確にし、計画的に進めること。



実行計画を立てよう②

導入システム(機器)全体イメージ



導入のポイント

オペレーションの変更による職員の負担等を鑑み、一度に複数の機器を導入するのではなく、以下の通り順次導入。

平成14年 介護記録システム(ワイズマン)

令和元年 介護記録ソフト(すぐろくTablet/ワイズマン)

令和3年 見守りセンサー(aams/バイオシルバー)

令和7年 記録用スマートフォン(wish4/SHARP)



実行計画を立てよう③

評価指標、評価方法、評価者、評価頻度等の設定

介護テクノロジーの導入による、利用者に対するケアの質の向上と、職員の身体的・心理的負担の軽減の効果を評価するため、以下のとおり設定。

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
巡視・移動時間	職員向けタイムスタディ調査を実施 ・回答方法: 自記式 ・調査実施の夜勤帯	見守り機器を用いたケアを行った職員	機器導入前、 機器導入後、 その後は1年に1回
職員の心理的負担感	職員向けアンケート調査を実施 ・回答方法: 自記式	見守り機器を用いたケアを行った職員	
見守り機器の導入で、夜勤職員1人あたりの歩く歩数	歩数調査を実施 ・回答方法: 万歩計アプリ ・調査実施の時間帯: 21時30分～翌6時30分まで	見守り機器を用いたケアを行った職員	
事故繰り返す頻度件数	職員向けアンケート調査を実施 ・回答方法: 自記式 ・参考資料: 事故報告書	見守り機器を用いたケアを行った職員	

機器導入に伴うオペレーションの見直し

<主導者・検討メンバー>

生産性向上委員会が主導し、法人委員会（旧ICT化推進チーム）と施設委員会（管理者、部署責任者、介護職員、看護職員、介護支援専門員）が連携して実施

<見直しのタイミング>

試験導入時 → 課題を洗い出し本格導入後 → 定期的に調整

<確認した資料・情報>

機器仕様書・導入マニュアル・他施設の導入事例・Wi-Fi環境調査結果

<メーカー・外部の助言>

メーカーサポート及びメーカーによる職員研修、記録システム・ナースコールとの連携確認、操作性やサポート体制の確認、外部研修や他施設の事例を参考に運用改善

施設長から今後の方向性について研修を受けている様子



※モデル事業者の詳細なオペレーションの見直し内容を確認したい場合は、P3記載の連絡先へご連絡ください。



改善活動に取り組もう

機器導入前評価の実施

- 生産性向上推進体制加算Ⅰで必要とされる調査等を機器導入前に実施。
 1. 利用者の満足度等の変化
 2. 総業務時間及び当該時間に含まれる超過勤務時間の変化
 3. 年次有給休暇の取得状況
 4. 介護職員の心理的負担等の変化
 5. タイムスタディ調査
 6. 歩数調査
- タイムスタディ調査は手書きで実施したため、調査の実施者および集計者の双方に大きな負担が生じた。今後は、機器導入後の調査においてタイムスタディ用アプリの活用を予定している。

機器導入に伴う職員の研修計画

- 導入機器の初心者向けの研修
導入前1回、以後職員入職時(担当:委員の職員)
- 導入機器のより効果的な活用方法を共有する会議 年1回
- 導入機器のヒヤリハット・有効活用事例を共有する会議 年1回



業者から操作説明研修を受けている様子

運用ルールの検討

1. 記録入力のルール化

すぐろく(記録システム)の活用により、従来のパソコン入力からスマートフォンでのタイムリーな入力に移行。グループ別に記録分類を設定し、選択式で入力できる文例や項目分類を整備。入力の統一と効率化を図るため、現場で使用頻度の高い文例をあらかじめ登録。翻訳機能の活用も視野に入れ、外国人職員にも配慮した入力環境を整備。

2. 見守りセンサーの設定と運用

センサーのアラート項目(離床・体動・心拍など)は各部署で管理し、設定に関するルール化を図った。

3. システム連携と記録の一元管理

見守りセンサーと既存の記録システムを連携させ、睡眠状態やバイタルの情報を一元管理。夜間定期巡視は廃止し、モニターでの確認を基本とする運用に移行した。



改善活動を振り返ろう(成果)

1. 定期巡視の削減と職員の負担軽減

見守り機器の導入により夜間の定期巡視をなくした(2回→0回)ことで、職員の身体的・精神的負担が軽減された。あわせて、利用者の睡眠の質向上にもつながっている。

2. 急変への早期対応と安心な生活支援

センサーのアラート機能により、利用者の体調変化に早期対応できるようになり、適切なケアと迅速な判断が可能となった。これにより、安全性と安心感のある生活支援が実現している。

3. 転倒・転落の兆候への迅速な対応

ベッドからの離床や動きの異変を感知する見守りセンサー及びカメラの活用により、転倒・転落のリスクを早期に察知し、未然防止につなげることができる環境が整った。

4. 記録の効率化と情報共有の強化

スマートフォンによる記録入力環境の整備により、現場での即時入力と情報共有が可能となり、記録業務の効率化が進んだ。あわせて記録内容の整理も行い、簡素で実用的な記録体制が整備された。これにより、記録時間の短縮と職員間の情報伝達の明確化が図られ、外国人職員にとっても扱いやすい環境が構築されている。

5. 生活リズムの把握と適切な声かけ

センサーのデータをもとに、利用者の生活パターンを把握できるようになり、適切なタイミングでの声かけや支援が可能となった。これにより、より個別性のあるケアにつなげることができた。

6. さらなる生産性向上に向けて

テクノロジー導入により環境が整備されたことで、さらなる生産性向上の可能性が見出され、生産性向上推進体制加算Ⅰの取得準備につなげることができた。

実行計画を練り直そう

初めから施設全体の流れを考えて計画を立てたことで、導入がスムーズに進んだ。機器を一部だけ入れるのではなく、記録システムを中心とした機器のつながりも含めて準備したことが良かった点である。

ただし、ネットワーク環境が不安定な部分もあり、機器をうまく使えない場面もあったため、途中でネットワーク整備に関する修正が必要となった。今後も、実際の使い方を見ながら、必要に応じて計画を見直していく予定である。



円滑な情報共有が生む、より良い介護。

事業者概要

法人名:社会福祉法人ほたか会
主たる施設所在地:前橋市



施設・事業所名	サービス種別	利用者数	従業員数
グランポルト前橋	特定施設入居者生活介護	78	19
	訪問介護		14
	定期巡回・随時対応型訪問看護		14
	夜間対応型訪問介護		11
	通所介護	70	13
介護老人保健施設青梨子荘 居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所		9
青梨子訪問看護ステーション	訪問看護		10

介護テクノロジー導入のきっかけ

職員の負担を軽減し、働きやすい職場環境を作ることで、職員定着率を向上させ、経験豊富な職員が定着することで、より質の高い介護サービス提供したいと考えておりました。

また、多職種連携で業務を行うため、情報を効果的に共有することで、チームとしての質を高めたいと考え、介護テクノロジーを導入しました。



山口支配人

目標と課題

【目標】情報共有による職員の負担軽減とケアの質の向上

【課題】

- ・記録業務に要する時間が長い
- ・事業所内の情報共有が非効率
- ・他事業所との情報共有が非効率
- ・文書の量が多い
- ・超過勤務が多い
- ・職員の身体的・心理的負担が大きい



導入機器等

【特定施設入居者生活介護】

導入機器の種別	導入機器（製品名/メーカー）
見守りセンサー	眠リスキャン/パラマウントベッド
バイタルセット	日本精密機器



【全事業所】

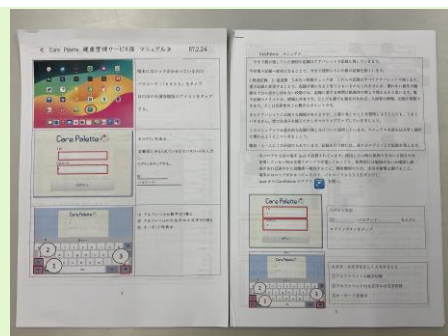
導入機器の種別	導入予定機器（製品名/メーカー）
介護ソフト	ほのぼの/NDソフトウェア
タブレット端末	iPAD/Apple
ナースコール設備	ケアコム



取組のポイント

介護ソフトを電子化することで、扱いが苦手な職員もいる。年齢や得て不得手関係なく誰でも一律に使用できるよう写真を添付するなど、具体的なマニュアルの作成を心がけた。

多職種連携で支援を行っているため、いつでも情報が確認できるよう一つのデバイスに利用者の様々な情報を集約できるよう努めた。



マニュアルの作成

導入成果(概要)

1. 時間外勤務 50%減
2. 介護テクノロジーの導入により生み出された時間で、個別ケアを充実
3. 文書量 50%減
4. 複数サービス間の情報共有の効率化
5. 生産性向上推進体制加算Ⅰの取得による年間50万円の収益獲得

機器導入により、情報共有による職員の負担軽減とケアの質の向上の目標を達成！



改善活動の準備をしよう

介護テクノロジー導入・評価に必要な会議体の設置

生産性向上委員会を設置

【実施したこと】

管理者と各所属長で構成する委員会を設置し、複数サービスを利用する利用者の情報共有について検討、課題解決のために必要な機器を選定。

経過については全体会議で職員へ周知。

【メンバー】

管理者・各所属長

【開催頻度】

月／1回

現場の課題を見える化しよう

ケアの改善に向けた課題の特定

【課題の特定のために実施したこと】

- ・ 生産性向上委員会の設置
- ・ 幹部職員でのミーティング

【特定施設入居者生活介護の課題】

- ・ 超過勤務
- ・ 新入職員が多いことで経験不足からのサービスの質の低下
- ・ ご入居者様の夜間の安眠

【複数事業所間の情報共有に関する課題】

- ・ 複数の事業所との情報共有をデータ連携で行えず、時間がかかっている。



実行計画を立てよう①

課題に対する目標設定

【特定施設入居者生活介護】

センサーや記録システム(ナースコールの更新)を導入することによって、ご入居者の睡眠や排泄状況の確認が出来、個別プランでの支援(巡視回数、排泄時間の見直し等)で安眠につなげる。

【複数事業所間の情報共有】

情報を効果的に共有することによって、職員の負担(利用者全員の情報管理が出来ることによる)を軽減されることで、ケアの質を高めていく。

介護テクノロジーの選定(類似機器調査)

- ・ 法人内他事業所ですで見守りセンサー、介護ソフト、タブレットが導入されている。
- ・ 他事業所へ研修に行き、使用方法、効果の確認を行ない選定。

機器導入環境の検討

- ・ 見守りセンサーを導入することでのWi-Fi環境の確認と環境の拡大。
- ・ 介護ソフトにおいては、介護計画、実行記録、請求まで手掛けられるソフトを選択。
- ・ ナースコールにおいては、履歴が確認できるため、事故や苦情発生時の根拠資料とすることができる。

評価指標、評価方法、評価者、評価頻度等の設定

介護テクノロジーの導入による、利用者に対するケアの質の向上と、職員の身体的・心理的負担の軽減の効果を評価するため、以下のとおり設定。

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
夜間巡視・移動時間を現状の2/3程度にする	職員へのアンケート・聞き取り。休憩時間及び時間外勤務等の状況把握。	夜勤従事職員	機器導入前、 機器導入後、 その後は1年に1回
データの連携機能により、業務効率の向上	職員向けアンケート・聞き取り調査の実施	全職員	
利用者のQOLの向上	利用者向けアンケート・聞き取り調査の実施	見守り機器を設置した ご利用者	



実行計画を立てよう②

機器導入に伴うオペレーションの見直し

- ・ 管理者を中心に幹部職員で見守りセンサーを導入することで得られる効果をもとに日課表の見直しを行う。
- ・ 介護・看護記録をペーパーレス化するため、介護ソフトで入力した記録を日誌化できるようメーカーへ相談を行う。
- ・ 既に見守りセンサー、介護ソフト、タブレットを運用している他事業所へ研修に行き日課表や、職員へのレクチャーシートの確認を行う。



※モデル事業者の詳細なオペレーションの見直し内容を確認したい場合は、P3記載の連絡先へご連絡ください。

改善活動に取り組もう

機器導入前評価の実施

- ・ 職員アンケートはまだ実施できていませんが、介護ソフトを電子記録としたことで、行った支援は項目から選択(ない項目はマスターにて登録)とし、記録に要する時間を極力短縮できるよう努めた。

機器導入に伴う職員の研修計画

- ・ ナースコール設備及び見守りセンサーの説明。導入前1回、以後年2回
- ・ 介護記録ソフト性能及び有効活用方法の説明。導入前1回、以後年2回

運用ルールの検討

管理者と所属長で電子カルテとすることでの注意事項を決め、マニュアルへ記載した。

- ✓ 記録の前倒しはしない。
- ✓ 他の職員がおこなったことを、自分の名前で記録に残さない。
- ✓ 記録の修正は当日のみ可。前日以降の記録の修正は役職者へ報告してからの修正。
- ✓ タブレットは個人情報が入っているため、出したままとせず、職員室へ戻す。



改善活動を振り返ろう(成果)

導入成果(記録システム)

職員の
負担軽減

<導入の工夫>

- ・ 誰でも一律に使用できるよう、具体的なマニュアルの作成。
- ・ 全職員が操作できるよう繰り返しの説明と研修実施。
- ・ 多職種といつでも情報が確認できるよう一つのデバイスに様々な情報を集約できるよう努めた。

<成果>

- ・ ご家族様や往診医からの問い合わせ時に紙の記録の確認の為に現場に行くか、現場役職者へ内線し確認をしていたが、タブレットでどこにいても、記録を見ることが出来現場に行くこと、内線電話は不要になった。
- ・ 同法人の居宅支援事業所や訪問看護とは、状態確認の聞き取りから、タブレット等で記録を確認できるようになった

導入成果(見守りシステム・センサー)

ケアの
質の向上

職員の
負担軽減

<導入の特徴>

- ・ 介護付き全床導入

<成果>

- ・ 離床や起き上がりの記録が自動入力されるとともに睡眠状態や呼吸・心拍確認も行える事で、モニターでの観察が可能となり、夜間の訪室巡視を画面確認巡視へ変更。
- ・ 準夜勤者(15時～0時)4名のうち2名を遅延番(13時～22時)として日課の変更。
- ・ 日勤帯の人員を厚くすることで、各担当業務や清掃を行い役職者においては自身の管理業務は業務後であったが、日中(13時～15時)に行え、残業時間が削減。
- ・ 超過勤務時間は取組前と取組後を比較し 半分以下に
- ・ 訪室しないことにより、ご入居者様の眠りの質の向上

導入成果(ナースコールシステム)

職員の
負担軽減

<成果>

- ・ 自動的に記録されるため、内容の入力のみで記録レスや虚偽記録防止、苦情や事故発生時の検証に有効。
- ・ ご入居者様のアセスメントに活用し排泄時間の見直しを行い職員の身体的・心理的負担の軽減に繋がっている。



改善活動を振り返ろう(成果)

導入成果(バイタルセット)

ケアの
質の向上

<導入の特徴>

- ・ パルスオキシメーター、非接触型体温計、手首式デジタル血圧計の測定結果を自動記録

<成果>

- ・ 看護において、バイタルセットの導入で記録に要していた時間を1日に1時間削減
- ・ ご入居者様の食事介助や看護としての専門性を生かしたサービスを提供するため、整容（ネイルケア）等の時間確保に繋がった。

導入成果(組織の観点から)

<成果>

- ・ 生産性向上推進体制加算Iの取得ができ、年間50万円の収益増
- ・ 記録システムを導入したことで、紙記録を扱う事で発生するヒューマンエラーの減少、経費削減

実行計画を練り直そう

【今後の課題】

- ・ 見守りセンサーを導入することで得られる効果からの日課表の見直しは実行できた。
- ・ 介護記録ソフトの記録を日誌形式で取りまとめができるよう、メーカーへ依頼中